

「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

	概 要
学 校 名	習志野市立第六中学校
活用の仕方	<p>数学科で「ちばのやる気」学習ガイドを、主に家庭学習用として活用した。課題を与えた次の時間に生徒が自己採点を行い、自らの理解度をチェックシートに記入した。</p> <p>また、単元の終わりに発展的な内容として「ちばのやる気」学習ガイドの問題を取り扱った。</p>
成 果 等	<p>授業の復習として活用し、基礎・基本の定着につながった。さらに、チェックシートを活用することで、生徒が自らの理解度を図ることができた。</p> <p>また、授業で発展的な内容を取り扱い、生徒に既習を使って解決させることで、見方や考え方を養うことができた。</p>

No.8 「比例・反比例のグラフや式」

学習重点事項

【目標】

(5) 比例・反比例の関係について理解を深め、伴って変わる2つの数量関係を表、式、グラフに表現したり、グラフ等からわかる事柄を読み取ったりすることができるようにしよう。

【内容】

- ウ 座標の意味が理解でき、座標を用いてグラフに表すことができる。
- エ 比例・反比例を表、式、グラフで表すことができ、それらの特徴を説明することができる。
- オ 比例・反比例を用いて、具体的な場面を説明することができる。

	チェック ◎、○、△
「Ⅱ 関数」比例・反比例のグラフや式	
目標① P59 表をもとにしてグラフをかくことができる。	
目標② P60 グラフにおける用語や座標の意味がわかる。	
目標③ P61～63 比例・反比例の関係を表や式、グラフに表したり、グラフから読み取ったりすることができる。	
目標④ P64 比例・反比例について理解を深め、表や式、グラフを活用して問題を解決することができる。	
目標⑤ P65～68 比例・反比例などの関数関係を用い、変域を考えて問題を解決することができる。	

○問題を把握する。

【問題1】
右の図のような一辺が12cmの正方形ABCDがある。点Pは、点Cを出発して毎秒2cmの速さで辺CB上を、点Qは、同じく点Cを出発してから毎秒1cmの速さで辺CDを、それぞれ往復する。2つの点が出発してからx秒後の三角形APCの面積をS cm²、三角形AQCの面積をT cm²とする。x秒後のS、Tの値の変化を調べよう。

○どうやって調べるか？
表を使って調べる。

x	0	1	2	3	4	5	6	7
S	0	10	20	30	40	50	60	60
T	0	6	10	16	20	26	30	36

x	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	40	30	20	10	0	10	20	30	40
T	42	45	50	56	60	60	56	50	45

x	17	18	19	20	21	22	23	24
S	60	60	60	60	40	30	20	10
T	36	30	26	20	16	10	6	0

○グラフを使って調べる。

一考
○1秒後に、点PはCからBへ2cm、点QはCからDへ1cm動く。

一考
○1秒後と2秒後における点Pと点Qの動きをテレビに出力し、変化する様子を視覚化することで、問題の内容をつかませる。

一考
○x=1、x=2のときの△APCの様子をテレビに出力し、xの変化にともなうSの値も変化することを図で示す。

○x=1、x=2のときのxとyの関係を表とグラフで表し、これからのようにxとyの関係を調べていくのが全体で確認する。

○x=1、x=2のSの値から、x=3のSやTの値を表やグラフから予想させる。

○表からxの値が増え、3倍・・・になるとSの値も2倍、3倍・・・になっていることに気づかせる。

○表からxの値が増えたとSの値もTの値も変域によって、一定の割合で増え、一定の割合で減ることに気づかせる。

○xとyの関係を表やグラフに表わすことが苦手な生徒には、正方形の図を配り、それぞれの時間における△QAPをかかせ、yの値を求めさせ

「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

概 要	
学 校 名	浦安市立美浜中学校
活用の仕方	英語科において、少人数で文法演習を行うときに使っている。ステップチェックの問題を目標別に分けて印刷し、まず目標①の問題をやらせる。生徒が答えを記入したら教師が採点し、個別にアドバイスを与え、全問正解したら次のステップの問題を渡していく。
成 果 等	多くの生徒は1時間で目標③までは終わらせることができる。早い生徒は⑤まで進むことができる。段階的に自分のペースで進めることができ、わかったときの達成感もある。教師も各生徒の理解度をどの段階まで進んでいるかで把握できる。

ステップチェック問題の活用に関する生徒へのアンケート調査（対象 1年生63名）

1 あなたはこの問題を解いているときに、一番やってみたいことは何ですか。

- ・自分の力よりも上の、難しい問題をやってみたい。（19％）
- ・友達同士で、考えたことを伝えたり聞いたりするようにしたい。（13％）
- ・自分の力に合った問題で、実力を確実なものにしたい。（30％）
- ・たくさん問題をやって、弱点をなくしたい。（32％）
- ・その他（6％）

【例】単語をたくさん覚えたい。みんなが間違えやすい問題をやりたい。
 答えがなぜそうなるかを理解したい。

2 あなたは、この問題をやったことで、自分にとってどんな効果があったと思いますか。（複数回答可）

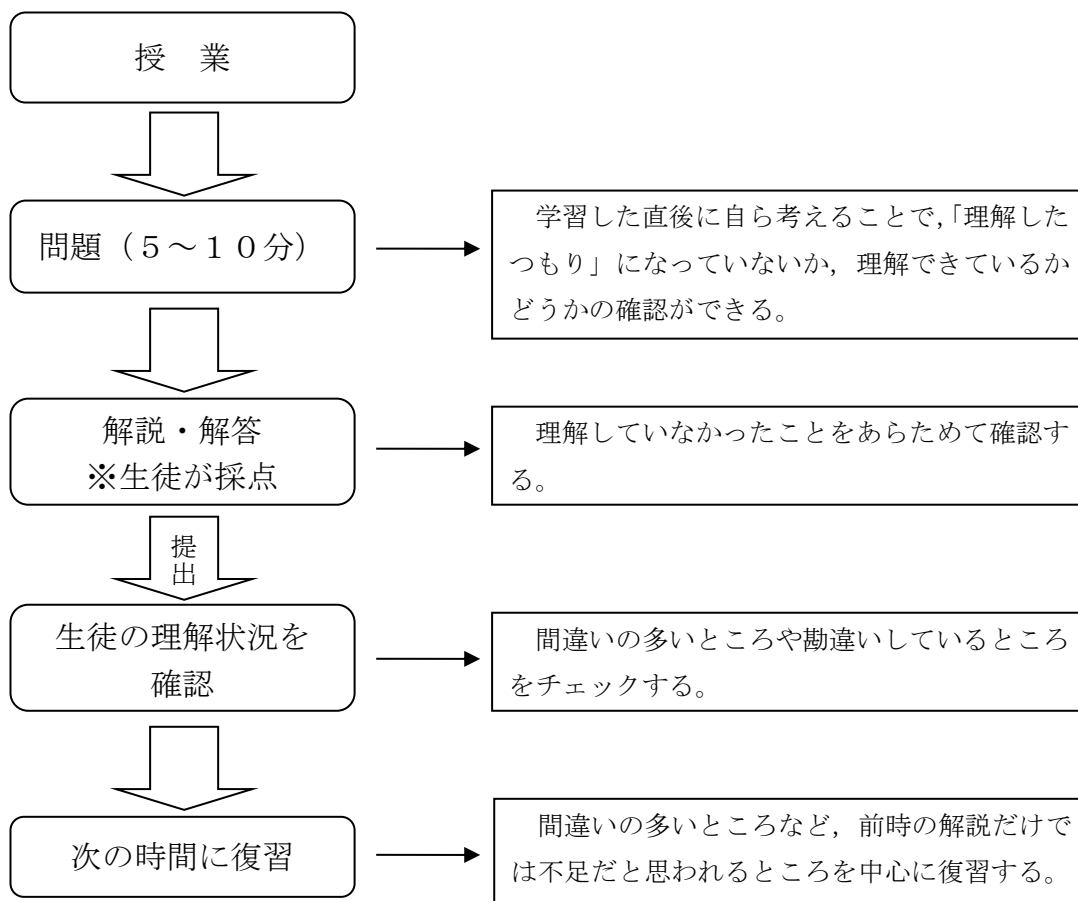
- ・問題の解き方がよく分かるようになった。（52％）
- ・問題を解こうとする「やる気」が出た。（14％）
- ・家で勉強する時間が増えた。（13％）
- ・問題を解くのが楽しくて、英語が好きになった。（17％）
- ・問題を解くときに、じっくり考えることが増えた。（25％）
- ・その他（13％）

【例】わからないところがわかるようになった。単語をたくさん覚えた。
 基礎から応用まで、自然にできるようになった。

「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

概 要	
学 校 名	市川市立塩浜学園
活用の仕方	理科の授業の後半に、まとめの場面で実施した。問題はHPからダウンロードしたものを印刷した。採点は教師が授業を振り返り解説を加えながら、生徒自身が行った。採点后、提出させて授業の内容を理解できているのかを確認した。
成 果 等	授業の内容をその時間の中で生徒自身が振り返り、理解できているかどうかを確認できた。また、教師の側も生徒が授業をどの程度理解しているのかを確認でき、その状況により、次の授業でどの程度掘り下げて前時の復習を行えばよいのかを考える目安となった。



「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

	概 要
学 校 名	流山市立北部中学校
活用の仕方	数学科や社会科などで練習問題を解かせるときに「ちばのやる気」学習ガイドを活用している。生徒に解答させ、採点をし、それを繰り返し行うことで学習の定着を図った。また、印刷した問題をファイルに綴じ、定期テスト前に再確認をするよう指導した。
成 果 等	教師が生徒の学習状況を把握し、アドバイスをしながら指導することで生徒と教師の信頼関係が生まれた。また、生徒同士で話し合いながら問題を解くことで、学習意欲が高まるとともに、わからない部分を聞き合うことができるようになり、単元学習の基礎的・基本的内容の定着が図られた。

数 学

これまでは、問題の意味を理解するのに時間がかかり、解答までに多くの時間を要したり、解答できない問題を分からないままにしたりしてしまう生徒が見られた。そこで、隣席の生徒同士で答案を見せ合い、話し合いながら学習する方法を取り入れたところ、基礎的・基本的な学習内容の定着に効果が上がっている。

社 会

公立高校の入試問題を意識し、「ちばのやる気」学習ガイドの『〇〇字程度で述べなさい』という問題を中心に活用している。文章を使って記述する問題は、採点しづらい欠点もある。そのため、記述の中でキーワードとなる言葉が入っていることで加点をしていく形をとり、まずは生徒に自己採点をさせ、答案を回収し、最後に教師が採点をして返却している。

その他

自習の時に活用するときは、問題を印刷して準備し、解答、答え合わせを生徒自身で行っている。解説もわかりやすいため、生徒はあまり悩まず、時間をかけずに確認することができている。

学力向上に向けた本校の課題の一つに家庭学習がある。さらに基礎的・基本的学習内容の定着を目指し、家庭学習を含め、「ちばのやる気」学習ガイドをどのくらいの頻度で使ったらよいかを模索している。

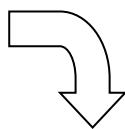
「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

概 要	
学 校 名	柏市立西原中学校
活用の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始時に、日常的に活用している。主な目的は、授業と休み時間とのけじめをつけることと、本時の授業に向かう雰囲気づくりである。 ・小まめに使うことと、使ったページや日付、効果等を記録しておくことを職員間で共通理解している。
成 果 等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒においては、授業開始時の集中力が高まる。また、本時の授業への心構えが整う。 ・教師においては、教科部会等で活用方法を検討することが教材研究のひとつとなっている。使った記録を見直すことで、進捗の確認もできる。

【活用例】 2年国語「徒然草」 (平成 28年 10月 21日 西原中学校)

- ① 活用するのは2年国語「読むこと(古典)目標①」。本時の目標は、「徒然草から学べ！」の発表準備。



- ② 授業開始時、プリント配付と同時に生徒が静かに取り組む。授業に向かう雰囲気づくりができる。



- ③ プリント終了後、教師の発問を静かに聞く。グループ学習中も、指示がよく理解されていることがわかる。始業時の集中の効果を実感する。



「ちばのやる気」学習ガイド 活用事例

概 要	
学 校 名	成田市立大栄中学校
活用の仕方	<p>数学科において、県共通評価問題をダウンロードし、その中の問題の一部を、計算の基本問題として活用している。また、類似問題を作成し、くり返し取り組ませている。</p> <p>データベースの問題を英語科では事前テスト、社会科では単元テストとして活用している。</p>
成 果 等	<p>数学科においては計算の基本問題に数多く取り組む場を設けているので、問題を解くための基礎が定着してきている。英語科においては、事前テストで生徒の習熟度を把握することで指導の効率化を図ることができている。社会科では単元テストの結果をもとに学習指導に活用している。</p>

社会科3年生・単元テストの様子



「ちばのやる気」学習ガイド

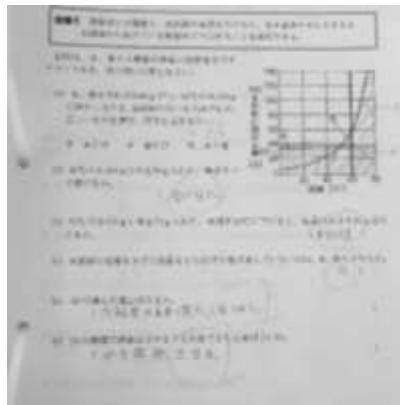
活用事例

概 要	
学 校 名	香取市立新島中学校
活用の仕方	国語科 朝自習や帰りの補習時に練習問題として行う。 数学科 朝自習や帰りの補習時に練習問題として行う。 社会科 地理の地形や国名など，ドリルや家庭学習として活用する。 理 科 前時の内容の確認問題やテスト前の練習問題に活用する。 英語科 レディネステストや，単元のまとめとして活用する。
成 果 等	各教科で教科の特性にあった活用方法を工夫している。復習などに活用することで，基礎基本の定着で成果を上げている。 また，レディネステストなど生徒の現状把握のために活用し，その後の授業に役立てることができた。

数学の朝自習として活用



理科の練習問題として活用



社会科地理で活用

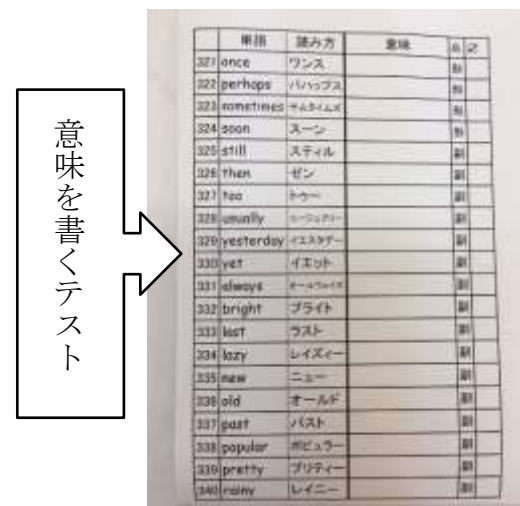
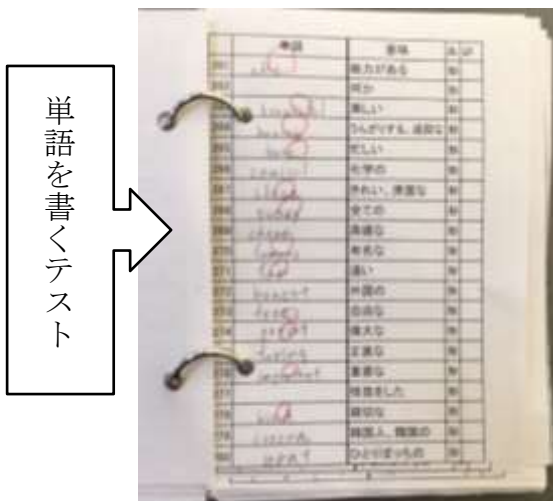
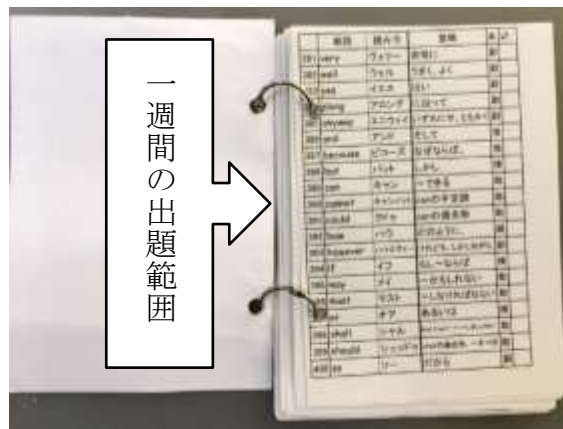
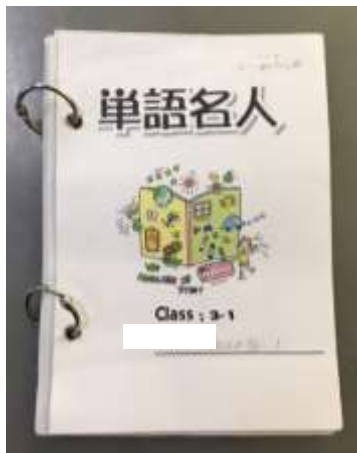


教科独自の活用方法を考え，さまざまな場面で活用することで学習効果を上げている。

「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

概 要	
学 校 名	銚子市立第六中学校
活用の仕方	英語科において、単語リストを用いて単語テストを作成している。一週間に20語を覚えることを目標にし、週一回確認テストを行っている。また、生徒が身に付けたい力に応じて出題形式を変えている。
成 果 等	見て意味のわかる、また書くことのできる語彙力を増やすため、400語まで課題として出した。生徒は家庭学習などで練習をし、週一回のテストに臨んだ。語彙力が上がったことにより、長文を読んだり、問題を解いたりするスピードが上がった。



「ちばのやる気」学習ガイド

活用事例

概 要	
学 校 名	長柄町立長柄中学校
活用の仕方	理科において、共通評価問題を印刷し、家庭学習で学習のまとめとして自主的に取り組めるようにしている。理科室前の廊下にクリアファイルを掲示し、プリントを学年ごとに入れている。教科担当者が減数を確認・補充している。他教科においても、宿題や単元のまとめテストとして活用している。
成 果 等	テスト前や受験時期には多くのプリントが使われている。「ちばのやる気」学習ガイドの活用により、生徒が復習を重視するようになった。家庭学習の方法は様々であるが、学習方法がよくわからない生徒にとって、プリント学習は効果的である。教職員のプリント作成の負担もなく基礎学力の向上につながっていくと考え、数年前から行っている。掲示するスペースをつくり、他教科でも同様の取組を広げたい。

【活用の詳細】

全教科について、家庭学習の方法や内容、テスト対策の勉強方法をまとめた「学習ナビ」（冊子と携帯用）を作成し、全校生徒と各家庭に配付している。学習方法の「問題に何回も繰り返し取り組む」という項目について、その一助とし、「ちばのやる気」学習ガイドを活用している。プリント裏面に模範解答を印刷し、自己採点ができるようにしている。

【活用の流れ】

- ①家庭学習で取り組みたいプリントを自主的に持ち帰る。
- ②自己採点までを行い、教科担当へ提出する。
- ③間違えた設問や分からないことについて、教科担当者が個別指導を行う。
- ④繰り返し同じ問題に取り組む。または、新たなプリントを活用する。



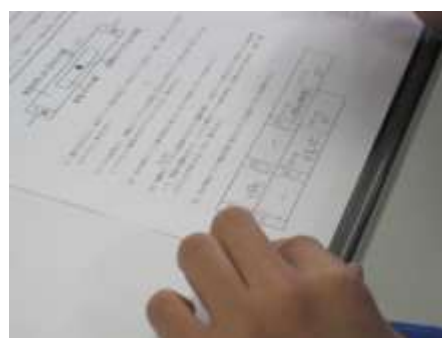
※休み時間に持ち帰る様子



※家庭学習の結果、自己採点をして教科担当から添削・指導を受け、仲間と教え合う様子

「ちばのやる気」学習ガイド 活用事例

概 要	
学 校 名	御宿町立御宿中学校
活用の仕方	理科において、授業のまとめ場面でWebのデータベースから問題をダウンロードして実施した。採点は生徒自身で行い、提出する。
成 果 等	評価問題を実施後、生徒は自己採点によって現在の課題を発見し、自ら調べて解決しようとしている。また、教師も採点の結果から生徒の課題を把握し、生徒のみでは解決できなかった内容を追指導することにより、基礎・基本の定着が図られている。



① 「ちばのやる気」学習ガイドの問題を解く。

②自己採点をする。



③自ら課題を発見し、解決する。

④教師の追指導を受ける。

「ちばのやる気」学習ガイド 活用事例

概 要	
学 校 名	市原市立国分寺台西中学校
活用の仕方	数学科や英語科においては、学習ガイドの冊子から問題を選択してプリントにし、夏季休業中の課題として生徒に配付した。 県共通評価問題の結果を各教科において分析・考察し、実態に応じた指導方法を検討している。また、単元ごとに定着率を把握し、学力向上への手立てを講じている。
成 果 等	国語科においては「書くこと」の能力を向上させる取組を行った。その結果、2年生は27年度において県平均を上回り、28年度は更に正答率を上げることができた。1年生(27年度)の英語科においては、疑問詞に課題があることがわかり、習得の向上を図る取組を行った。2年次に、1年次の問題に再度取り組ませたところ、疑問詞に関する問題の正答率は上昇した。

[国語] 対象学年：2年

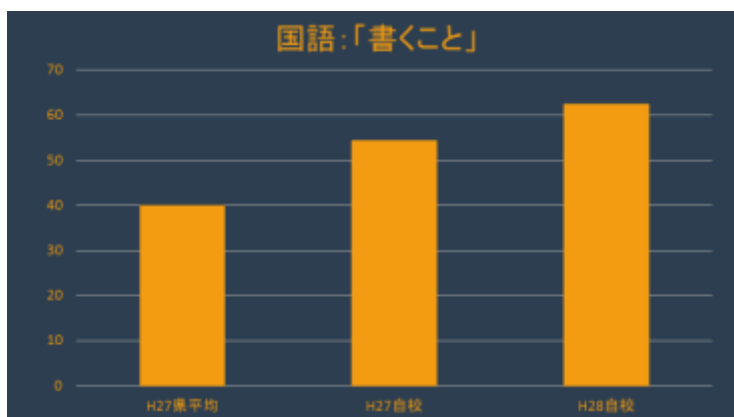
平成27年度 第1回県共通評価問題

正答率 54.4%

↓ **8.1%上昇**

平成28年度 第1回県共通評価問題

正答率 62.5%



[英語] 対象学年：H271年～H282年

平成27年度 第2回県共通評価問題

【1回目：平成27年12月実施】

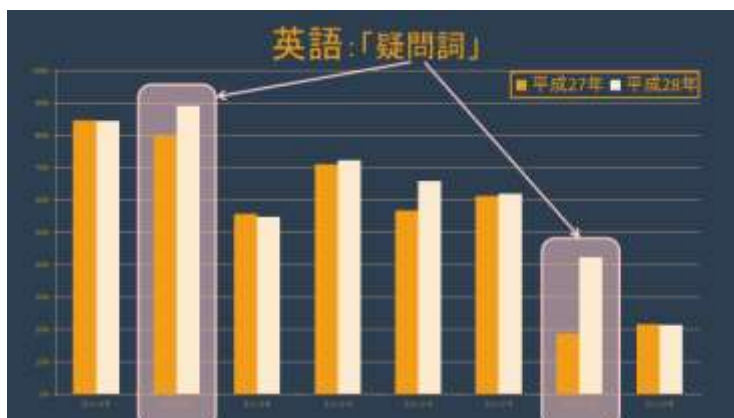
ユニット14 (グラフ左側) ユニット16 (グラフ右側)

正答率 79.7% 正答率 18.7%

↓ **9.3%上昇** ↓ **23.6%上昇**

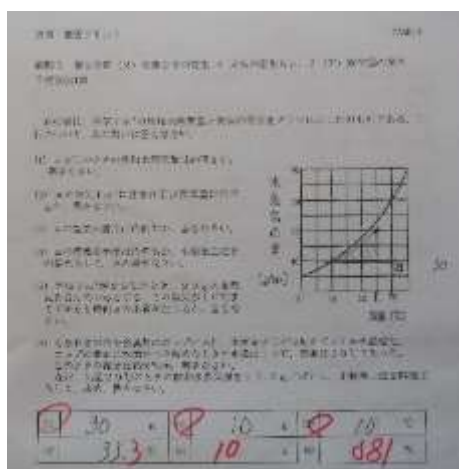
【2回目：平成28年9月実施】

正答率 89.0% 正答率 42.3%



「ちばのやる気」学習ガイド 活用事例

概 要	
学 校 名	富津市立天羽中学校
活用の仕方	理科では、授業開始 5 分間で実施できる復習プリントについて、Webデータベースから問題を作成し、実施している。 数学科では、1・2年生の内容を単元ごとにまとめたプリントを空き教室に並べ、自由に利用できる環境をつくった。
成 果 等	指導者・生徒ともに重要事項を問題形式で確認できるので、定期テストに向けての取組に役立っている。また、生徒がどこでつまづいているかを確認できるので、個別の指導に役立っている。



作成した理科の復習プリント



単元ごとにまとめて準備した数学のプリント